

銘柄分析レポート：いぶし銀ファンド（2017年版）

1 はじめに

私が勝手に「いぶし銀ファンド」と呼んでいる株式投信があります。過去10年間のパフォーマンスにおいては、TOPIXやJASDAQ指数に大差をつけました（下のチャート）。

ファンドマネジャー氏は、6月12日付の運用報告書にて、次のように述べています。

当期は相対的に伸び悩んでいた内需系・高成長銘柄ですが、十分に調整が進んだとは言えず、依然として割高感が残っています。また、一貫して上昇を続けてきた新興市場銘柄に関してはかなり過熱感があり、今後はそれらの銘柄に振り回される形で荒っぽい値動きが予想されます。当ファンドでは、新興市場・内需系・高成長銘柄の上昇には追随せず、あくまでも製造業を中心とする高収益割安銘柄への投資に徹する方針です。

機関投資家の場合、ベンチマークに負けたくない一心で、強い銘柄に“目をつぶって”ついていくケースもあると聞いています。

そんな中、相変わらず投資ポリシーを堅持する姿勢は立派です。

今回の銘柄分析レポートでは、久しぶりに、この「いぶし銀ファンド」の投資銘柄について取り上げます。

★いぶし銀ファンドのパフォーマンス

